



(姫路)

稻富遺跡は、御津町朝臣の雛山山地から南に延びる尾根の裾の麓床面下部にできた扇状地に位置する。圃場整備事業に伴い調査を実施した。弥生時代から室町時代後期にかけての複合遺跡であるが、主な検出遺構は室町時代後期の掘立柱建物・土坑などであった。しかし、この遺跡の特徴は、奈良時代から平安時代にかけての須恵器が非常に多く出土している点である。また、

兵庫・稻富遺跡いなどめ

緑釉陶器や灰釉陶器も出土している。遺跡の北側には、奈良時代開基の伝承もある円融寺があり、本遺跡は寺院跡の可能性もある。

木簡は、集石土坑から出土した。土坑は、東西一・二m南北一・

- 1 所在地 兵庫県たつの市（旧揖保郡）御津町稻富
- 2 調査期間 一〇〇一年（平13）五月～九月
- 3 発掘機関 御津町教育委員会
- 4 調査担当者 芝香寿人
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～室町時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

二mの隅丸方形状を呈する。深さは一〇cmと浅く、底面は平坦である。土坑内には、一〇～一〇cmの角礫が四十数個乱雜に集積しており、その中から木簡が一点出土した。埋土からは、土師器片が一、三点出土したが、時期を決める資料にはならなかった。また、ほとんどの角礫には焼けた痕跡が見られ、検出状況から判断すると、異なる場所で焼かれた角礫などが、その後、二次的に土坑内に投棄されたものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1)



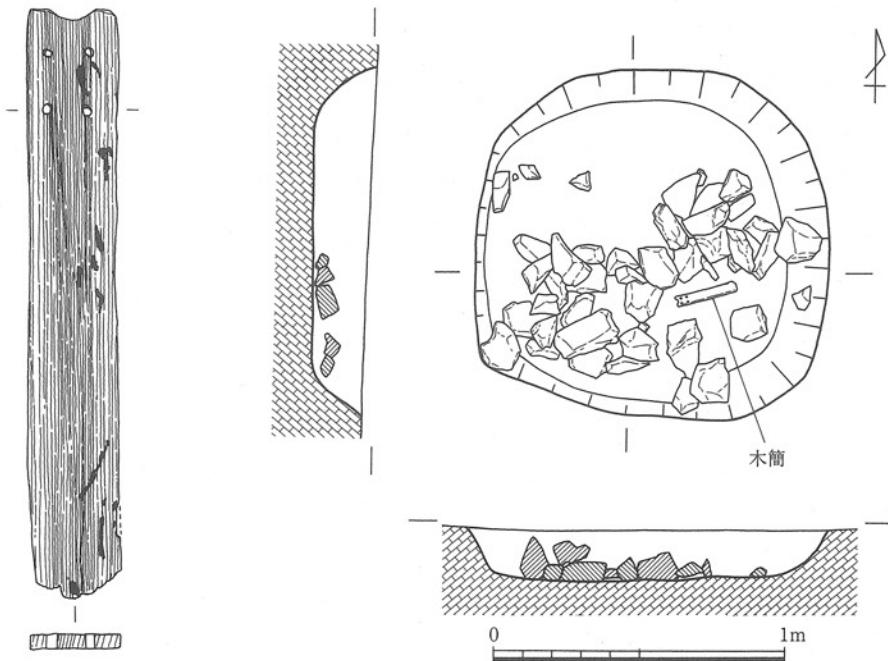
(212)×31×6 019

スギ材を使用している。頭部には径一～三mmの小孔が方形に四ヵ所穿たれており、下部は欠損している。出土した直後には墨書が觀察されたが、文字を釈読する前に消えてしまい、赤外線写真などを使い判読を試みたが、結局内容は不明という結果になってしまった。

9 関係文献

御津町教育委員会『稻富遺跡』（御津町埋蔵文化財報告書四、一〇〇〇年）

（芝香寿人）



木簡出土集石土坑遺構図

木簡研究第二六号

卷頭言——『全國木簡出土遺跡・報告書綜覽』刊行に寄せて—— 小林昌二

概要	平城京跡左三条二坊十一坪	平城京跡右京北辺
京四条二坊二坪	法華寺	旧大乘院庭園
寺南方遺跡	鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡	藤原京跡・石神遺跡
城跡	東福寺常樂庵庫裏	飛鳥寺・中世勝龍寺
玉城跡	奈良井遺跡	神遺跡
波離宮跡	久宝寺遺跡	玉津田中遺跡
玉城跡	兵庫津遺跡	北村廢寺
城跡	伊丹郷町遺跡	入佐川遺跡
洲城跡	明石城・武家屋敷跡	対中遺跡
城下町遺跡	大毛沖遺跡	土橋遺跡
田目条里制遺構	北条泰時・時頃邸跡	北条泰時・時頃邸跡
仙台城跡(二の丸地区)	水戸藩徳川家小石川屋敷跡	永福寺
古志田東遺跡	(新諏訪町遺跡)	春日町遺跡
遺跡	龍泉寺町遺跡	第VII回
目遺跡	馬場下町遺跡	元町一丁目遺跡
目遺跡	新田一丁目遺跡	元町一丁目遺跡
目遺跡	金石本町遺跡	神明遺跡
目遺跡	No20遺跡	北東山遺跡
橋金広・中馬場遺跡	桜町遺跡	荒井猫田遺跡
橋金広・中馬場遺跡	中名VII遺跡	河股城跡
米子城跡	竹ノ内遺跡	任海宮遺跡
米子城跡	下前川原遺跡	荒井猫田遺跡
米子城跡	市川橋遺跡	長徳寺前遺跡
才ノ峠遺跡	新谷地遺跡	龍門寺茶葉
ノ丸地区	津輕氏城跡・弘前城跡	本町一丁目
ノ丸地区	井川城跡	櫻城跡
ノ丸地区	小杉木城遺跡	河内守城跡
ノ丸地区	長門國分寺跡	小杉木城跡
ノ丸地区	願海寺城跡	河内守城跡
高松城跡(2)	高松城跡(3)	高松城跡(1)
雨雀遺跡群	青田遺跡	高松城跡(2)
柏町遺跡(長崎奉行所立山役所跡)	鹿田遺跡	高松城跡(3)
一九七五年以前出土の木簡	尾道寺	高松城跡(4)
一九七五年以前出土の木簡	長門國府跡	高松城跡(5)
一山田寺跡(第五回)	長門國府跡	高松城跡(6)
一山田寺跡(第五回)	館野和己・武内紹人	高松城跡(7)
一山田寺跡(第五回)	竹内亮一	高松城跡(8)
弥勒寺西遺跡(第二五号)	桑原祐子	高松城跡(9)
中央アジア出土のチベット語木簡	鐘江宏之	高松城跡(10)
川南著	武田和哉	高松城跡(11)
木簡学会編「日本古代木簡集成」	武内紹人	高松城跡(12)
頒価	高松城跡(13)	高松城跡(14)
五五〇〇円	高松城跡(15)	高松城跡(16)
送料六〇〇円	高松城跡(17)	高松城跡(18)